

# 緊急 9度目のイラク取材

## バグダッドは壁に 囲われた「監獄都市」



バグダッドは壁に囲まれた監獄都市

ジャーナリスト 西谷 文和

私は今年10月に9度目となるイラク取材を敢行した。危険を承知で今回は首都バグダッドに潜入した。泥沼のイラク戦争開始から5年半、首都バグダッドは、壁に囲われた「監獄都市」になっていた。

### 「カメラを隠せ」と通訳が叫ぶ

あわてて、後部座席に身をかがめる

「カメラを隠せ！チェックポイントだ！」通訳が叫ぶ。車内から外の景色を隠し撮りしていたのだが、あわててビデオカメラを引つめて、ランドクルーザーの後部座席に身をかがめる。ここはバグダッドの中心街、アル・ラシード地区。4年前ここを訪れたときは、危険ながらも、車から降りて道行く人々にインタビューできたのだが、今はカメラを抱えた外国人ジャーナリストは、「格好の獲物」だ。バグダッドの街には武器があふれ、身代金目的の「誘拐ビジネス」がはびこっている。誘拐だけではない、およそ百メートルごとにイラク国防軍の兵士が戦車から監視の目を光らせていて、「ビデオカメラを回す不審なヤツ」は、すぐに尋問され、軍や警察の施設がビデオに写っていたら、その場でアウト。よくてカメラ



戦場から逃げてきた子どもたちで小学校は満杯だ

### 米軍の飛行船が 市民生活を監視

空を見上げると、飛行船が

「あれは何？」米軍の監視飛行船だ。毎日飛んでいるよ。ああやって上空から市民生活をモニターしているんだ。」知らなかった。4年前バグダッドを訪れたときは、街角に米軍の戦車が停まっていた。上空には軍用ヘリが飛んでいた。その後イラクの治安は極端に悪化し、武装勢力のロケット弾は、ヘリを撃ち落すし、道路わきに仕掛けられた路肩爆弾は、戦車を吹っ飛ばす。あまりにたくさん米軍兵士が殺されるので、今では「無人飛行船」が武装勢力を監視しているのだ。

今回私の護衛に当たってくれたのは、クルド愛国者同盟(PUK)の兵士たち。そのPUKバグダッド本部もまた、コンクリートで二重三重に囲まれている。PUK兵士に守られて、「クルド人のための母と子ども支援センター」へ。

### 孤児の施設に「日本人がくる」のニュースは広がる

この戦争で夫を奪われた未亡人や、孤児たちのための施設だ。

「日本人が来る」というニュースはあつという間、この戦争で夫を奪われた未亡人や、孤児たちのための施設だ。



水頭症のサバー君。劣化ウラン弾の影響か？

からコンクリートの壁を3箇所入り込んだ「アル・マンソールホテル」。チグリス川に面した5つ星ホテルだが、たびたび停電するし、きれいな水は出ない。米軍が発電所や浄水場を空爆し、その後、そうした施設を復興させようとすれば、テロリストが爆破するから、バグダッドその他イラクの諸都市では、電気ときれいな水が不足している。

### ドカーンという爆発音 「近いぞー」。27人が死亡

ホテルの部屋で、通訳のオマルと翌日の日程を相談していると、ドカーンという爆発音。「やったな、近いぞー」。慌てて



バグダッドでは今日も爆発が。この爆発で27人が死亡

ホテルの部屋から外の景色を撮影。チグリス川をはさんだ対岸のビルからもうもうと煙が上がっている。その日のアルジャジーラTVで知ったのだが、この爆発で27人が死亡した。「ユー・ジアル(普通のことだ)」とオマル。「イラク人はもう誰も驚かない。毎日どこかで爆発するよ」とも。ウー、ウーというバタカーのサイレンとともに、バタバタという米軍ヘリの轟音。そしてどこからともなく現れる無人の飛行船。4年前はこのようなテロがあると、米軍戦車が現地に駆けつけたのだが、今は上空から偵察するだけ。治安を守っているのはイラク軍と警察で、米軍は基地に閉じこもっているのだ。

### 第3の都市 モスル イラクで一番危険な都市に

バグダッドを後にして、北へ向かう。目的地はイラク第3の都市モスル。バグダッドやファルージャなどは激戦地であったが、今年になって住民たちが自警団を作り「アルカイダ掃討作戦」を行った。住民たちに追い払われたアルカイダはモスルに向かった。モスルは今やイラクで一番危険な都市になった。モスル郊外のハマタニーヤ病院。多くのモスル市民がこの病院に逃げ込んでくる。小児病棟は一つのベッドに患者が二人。



アリー君の右足

付き添いの母も二人。狭いベッドに4人で寝る。こども「日本人が来ている」というニュースはあつという間に広がる。さまざまな患者たちが「助けてくれ」と訪問してくる。その中の一人、アリー君(9歳)。彼の左足は切断したのではない。遺伝子異常で生まれつき足が膝から折れ曲がり、膝の横に足がくっついている。劣化ウラン弾による放射能汚染だと思われる。1991年の湾岸戦争、98年には砂漠のキツネ作戦、そして今回のイラク戦争。モスルにも大量に劣化ウラン弾が撃ち込まれているし、化学兵器が使用された疑いもある。いわば「複合汚染」によって人々は、通常では考えられない病気に罹患する。

ムハンマド君(3歳)の顔は明らかに変形している。上の兄は正常。つまりこの子は、



ムハンマド君の顔は変形していた

今回のイラク戦争で使用された劣化ウラン弾で、汚染されたのかも。戦争の張本人であるブッシュ大統領は、その責任を問われることなく、豊かな暮らしを続けていくだろう。しかし戦争が残した爪あととは想像以上に残酷である。劣化ウラン弾の残留放射能やクラスター爆弾の不発弾は、無実の人々を傷つけていく。この責任を誰が負うのか？オバマ次期大統領は、一刻も早く戦争を終結させ、イラク国民に謝罪し、このような戦争犠牲者に対して誠意ある補償をするべきである。

### 戦争が残した爪痕は残酷、アメリカは イラク国民に謝罪し、補償すべき

緊急 9度目のイラク取材

緊急 9度目のイラク取材